鉄鋼概況

2013 年度粗鋼，今年度より下回る見通し

鉄鋼エコノミスト　左近司 忠政

11 月の全国粗鋼生産量は，前年同月比 2.3%減で 3 カ月連続で減少し，11 カ月ぶりに 850 万トンを下回った。11 月の輸出（全鉄鋼ベース）は前年同月比 16.4%増で再び増加に転じた。前月に続き経済産業省があらためて鉄鋼メーカーにヒアリングした 10～12 月期生産計画の集計結果によると，中国要因による 10～12 月期計画の下方修正分は粗鋼ベースで 16 万トン，鋼材ベースで 15 万トンにのぼり，粗鋼で 60 万トン，鋼材で 55 万トンの減産規模となる。鉄鋼連盟が発表した見通しでは，2012 年度の粗鋼生産は前年度並みの 1 億 600～700 万トン程度を維持し，2013 年度は前年度を若干下回ると見通している。経済協力開発機構（OECD）鉄鋼委員会は 12 月初旬パリで開催され，世界の鋼材市場で需給ギャップが顕在化する中で，品種別の需給状況の調査を世界鉄鋼協会（WSA）と共同で行なうこととなった。11 月の世界粗鋼生産（62 カ国）は，前年同月比では 5.1%増で 2 カ月連続の増加となり，日産量では前月比 0.5%増で 2 カ月ぶりの増加となった。2012 年の通年では昨年に続き 2 年連続で 15 億トン超えの可能性が強い。

◆11 月粗鋼生産，11 カ月ぶり 850 万トン割れ

鉄鋼連盟が発表した 10 月末の普通鋼鋼材の国内在庫（メーカー・問屋段階）は，前月末（567 万 6,000 トン）比 2.4%，13 万 8,000 トン減の 553 万 7,000 トンと 3 カ月ぶりの減少となった。国内在庫率は前月末から 8.0 ポイント低下したが 139.0%と，いまだ高水準となっている。一方，鉄連が発表した 10 月末の普通鋼鋼材の流通在庫は，全国市中鋼材数量調査によると前月横這いの 270 万トン（前年同月比 2.6%減）となった。10 月の販売量は前月比 4.3%増の 264 万 3,000 トン（同 1.5%減）で，その結果 10 月末の在庫率は前月末比 4.4 ポイント低下して 102.1%となり，100%超えが 23 カ月も続いている。

主要鉄鋼製品の在庫状況をみると，10 月末の薄板 3 品（熱延・冷延・表面処理鋼板）の国内在庫（メーカー・問屋・コイルセンターの合計）は前月末比 2.1%，8 万 6,000 トン減の 407 万 1,000 トンとなり，8 月から続いた在庫増加にようやく歯止めが掛かった。しかし，在庫率は 2.41 カ月（前月末は 2.36 カ月）と前月に比して上昇した。鉄鋼メーカーでは「中国の日系自動車メーカーの生産は依然不透明であり，もう一段の在庫量引き下げが必要」としている。また，主要建材製品である H 形鋼の 11 月末の流通在庫は，新日鉄住金の建材特約店組織である「ときわ会」の調査によると，前月末比 0.3%減の 18 万 2,900 トンとなり，2 カ月ぶりに減少した。在庫率は 1.91 カ月と前月末比 0.08 ポイント下がり 2 カ月連続で 2 カ月を割り込んだが，いまだ「在庫改善が必要」と新日鉄住金は見ている。

鉄鋼連盟が発表した 11 月の全国粗鋼生産量は，前年同月比 2.3%減の 849 万 8,000 トンとなり，3 カ月連続で減少し，11 カ月ぶりに 850 万トンを下回った。1 日あたりの生産量は 28 万 3,000 トンで前月比でも 0.6%減少した。日中関係の悪化，エコカー補助金終了による自動車や建設産業機械の生産減を受けて，高炉メーカーや特殊鋼電炉メーカーが生産

調整を継続している。炉別生産では，転炉鋼が前年同月比 0.4%増の 652 万 2,000 トンで 3 カ月ぶりに増加した。一方で電炉鋼は，同 10.4%減の 197 万 6,000 トンで 4 カ月連続の減となった。1～11 月の粗鋼生産累計は前年同期比 0.5%減の 9,865 万 8,000 トンで，2012 年暦年では前年比微減の 1 億 720 万トン程度になると見込まれる。

財務省が発表した 11 月の鉄鋼貿易統計によると，輸出（全鉄鋼ベース）は前年同月比 16.4%増の 351 万 8,000 トンとなり，再び増加に転じた。タイの洪水の影響で昨年 11 月に輸出量が減少した反動で前年比大幅増となり，前月比でも 5.7%増と 4 カ月ぶりに上向いた。一方，全鉄鋼輸入は前年同月比 10.6%減の 68 万 1,200 トンと 2 カ月連続の減少，前月比でも 7.3%減となった。向け先別輸出ではアジアが前年同月比 19.4%増の 281 万 4,000 トンとなったが，この内中国向けは日系企業の活動低下を反映して同 12.0%減の 44 万 2,000 トンと 4 カ月連続で前年水準を下回った。NIE's は 5.3%増の 102 万 4,000 トン，ASEAN が 62.5%増の 115 万 6,000 トンとなった。アジア以外では米国が 22.3%減の 14 万トンと 16 カ月ぶりの前年割れとなり，中東が 34.2%増の 15 万 7,000 トンとなった。輸入国の主要な内訳は，アジアが前年同月比 12.2%減の 55 万 7,500 トンで，この内中国は 36.1%増の 13 万 3,500 トン，NIE's が 19.1%減の 39 万 9,600 トンであった。その他，ロシアが 13.0%増の 2 万 2,700 トン，EU が 8.2%減の 1 万 900 トンであった。

◆10～12 月期生産計画，中国リスクで下方修正

先月に記述した経済産業省が鉄鋼メーカーにヒアリングした 10～12 月期生産計画の集計結果は粗鋼ベースで 2,660 万トンであったが，その時点では中国リスクが一部しか織り込まれていなかったので，同省はあらためてメーカーにアンケート調査を行なった。それによると，中国要因による 10～12 月期計画の下方修正分は粗鋼ベースで 16 万トン，鋼材ベースで 15 万トンにのぼった。これにヒアリング時点で織り込んだ分を加えると粗鋼で 60 万トン，鋼材で 55 万トンの減産規模となる。鋼材 55 万トンのうち輸出は 28 万トン，国内販売で 27 万トンとされる。中国リスクによる下方修正では自動車の影響が圧倒的に多いが，建設機械，電気機械向けでも一部に影響が出ていると言われる。中国リスクによる影響は 2013 年 1～3 月期にも続く公算が大で，当面は厳しい需要環境が続く。

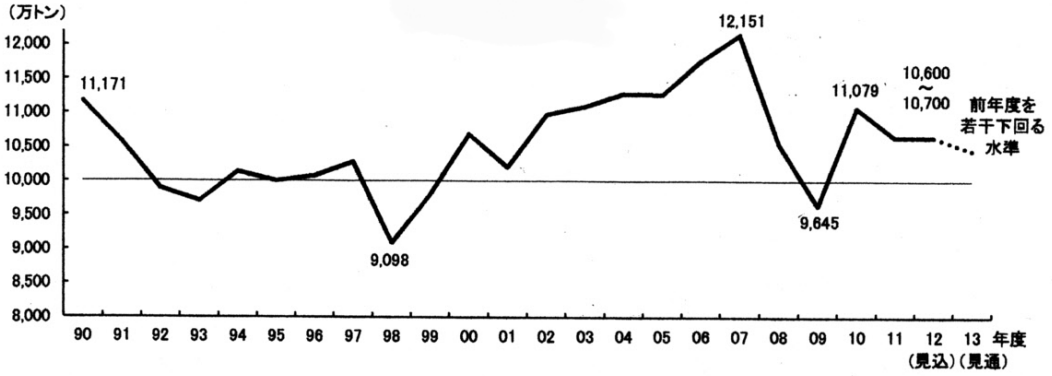
◆2013 年度粗鋼，今年度より下回る――鉄連見通し

鉄鋼連盟は 12 月中旬，2012 年度の粗鋼生産見込みと 2013 年度の見通しを発表した。それによると，2012 年度はエコカー補助金など政策効果による民間需要の回復，復興に関わる公共投資の増加等から上期の鉄鋼国内需要は回復軌道をたどったが，下期は政策効果の終了や外需減少に加え，中国向け製造業輸出の減少もあって製造業の生産活動が停滞し，鉄鋼需要は製造業向けを中心に停滞感が強まっている。また，海外鉄鋼市場は，拡大テンポは鈍化したものの東南アジアを中心として鉄鋼需要は比較的堅調に推移している。しかし，中国・韓国における大幅な鉄鋼生産能力増強の影響を受けてアジアの鉄鋼需給は大幅に緩和している。この結果，2012 年度の粗鋼生産は上期が堅調であったこともあり，前年度並みの 1 億 600～700 万トン程度は維持する見込みである。

2013 年度の国内需要は，消費税増税前の駆け込み需要や設備投資の回復等から建設分野は増大が見込まれるものの，製造業分野では造船向けの減少に加え，海外生産シフト等によって自動車・建設機械・電気機械向けも力強い回復には至らず，全体では前年比微減程度にとどまると予想される。また，海外鉄鋼市場も競合激化は避けられず，鉄鋼輸出は前年度を若干下回る一方，輸入は高い水準が継続するとみられる。その結果，2013 年度の粗

鋼生産は，前年度を若干下回ると見通している。

図1　粗鋼生産の推移



◆OECD 鉄鋼委，過剰能力問題で調査

経済協力開発機構（OECD）鉄鋼委員会は 12 月初旬パリで開催され，世界の鋼材市場で需給ギャップが顕在化する中で，品種別の需給状況の調査を世界鉄鋼協会（WSA）と共同で行なうこととなった。世界の鉄鋼生産能力は需要の増加に伴い，ここ 10 年で 2 倍に拡大した。急激な需要増が続いている間は需給ギャップはさほど目立たなかったが，新しい生産設備の立ち上げと相前後して需要の伸びが鈍化したことで，2011 年頃から能力過剰問題が表面化してきた。同委員会事務局によると，世界の鉄鋼需要は長期的には成長市場だが今後 10 年間の伸びは過去 10 年に比して鈍化するとしている。さらに，同委員会では東南アジアでは自動車用鋼板が不足するなど，粗鋼の観点からだけでなく品種別の分析が必要であるとした。また，世界貿易機関（WTO）協定に反する形の鉄鋼業への政府の関与・補助金，貿易障壁といった市場歪曲的行為については引き続き注視する考えで一致した。

◆2012 年世界粗鋼生産，15 億トン超え

世界鉄鋼協会（WSA）がまとめた 11 月の世界粗鋼生産（62 カ国）は，1 億 2,168 万トンとなり，前年同月比では 5.1%増で 2 カ月連続増，前月比では 2.7%減で 3 カ月ぶりの減少となった。日産量では前月比 0.5%増で 2 カ月ぶりの増加となった。中国，中国以外の日産量はともに前月比 0.5%増であり，2 カ月ぶりに増加した。新興工業国では，韓国の日産量は同 2.9%増と 2 カ月ぶりの増となり，インドは 0.1%増ながら 4 カ月連続の増となった。ブラジルは 6.8%減と 3 カ月ぶりに減少した。先進国では，EU27 カ国が同 1.2%減と 2 カ月連続で減少し，北米は 1.6%増と 3 カ月ぶりの増加，日本は 0.6%減と 5 カ月連続で減少した。

11 月の年率生産では 15 億トンを下回ったが，1～11 月の累計実績では前年同期比 0.9%増の 13 億 9,735 万トン（年率換算 15 億 2,700 万トン）となった。2012 年通年では，12 月の生産が 11 月の生産ペースの場合は 15 億 2 千万トン前後，11 月比で 15%減っても年間生産は 15 億トンに到達する。昨年（15 億 1,469 万トン）に続き，2 年連続で 15 億トン超えの可能性が強い。 ❑